

# FAX 飛躍

## JR東労組東京地本青年部

# 本物に触れて何を感ず取るか？

このほど、広島県にある原爆資料館がリニューアルされました。「被爆の実相」をテーマに掲げて、原爆の被害がよりリアルに伝わるような展示内容となりました。先日のFAX飛躍でもお伝えしたように、原爆をはじめとする戦争の被害・実体験を語る方は年々少なくなっています。私たち青年部世代が戦争被害を直接聞き、伝えられる最後の世代と言われています。原爆では外国人も被害にあいました。ひとたび戦争となれば性別・年齢・国籍など関係なく、立場の弱い労働者・市民が犠牲になります。

今の日本では2020年のオリンピックに目が行きがちですが、憲法改正を今の政権が狙っているのは変わっていません。令和の時代も日本が戦争に向かうことのないよう平和について一人ひとりが考えていきたいと思います！

## 原爆資料館 実物展示重視

### 広島、本館リニューアル

4月25日東京新聞



再オープンした原爆資料館本館の展示を見る地元の小学生ら＝25日午前、広島市で

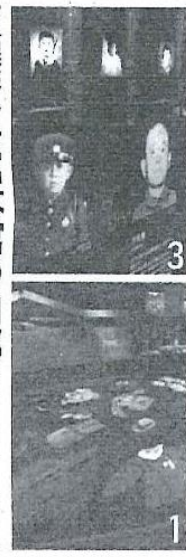
老朽化に伴う耐震補強工事と展示物のリニューアルのため二〇一七年四月から休館していた広島市の原爆資料館本館が二十五日、再オープンした。テーマに掲げる「被爆の実相」をよりリアルに感じてもらうこと、被爆者の人生に焦点を当てて展示方法を一新した。再開を記念して開かれた式典であいさつした広島市の松井一実市長は「被爆の実相を伝える拠点となる。

被爆者や家族の苦しみ悲しみを国内外の多くの人に理解していただきたい」と述べた。同館によると、本館の常設展示で公開する資料は五百二十八点。休館前は百十

二点だった写真資料は百七十三点に増やしたほか、米兵捕虜など外国人被爆者のコーナーを初めて設置。写真や遺品などの実物展示を重視し、文字での説明を極力抑えた。

原爆資料館本館の内部（25日再オープン）

原爆資料館本館の内部（25日再オープン）



原爆孤児や原爆小頭を「原爆の像」のモデルとした故佐々木禎子さんの展示も

生前のエピソードが添えられた被爆者家族の遺品などの展示

当時の放射線が写った写真

犠牲者や被爆者の衣服や鉄骨などの資料



兵庫県明石市から訪れた無職貧乏哲郎さん(左)は「過去の戦争や原爆についての情報はこれまでも頭の中にあっただが、改めて原爆は本当にひどいものだと感じた。展示ひとつひとつから凄惨な事実が垣間見えた」と話した。

原爆資料館 広島市中区の平和記念公園内にあり、原爆犠牲者の遺品など約2万点を収蔵する博物館。本館は被爆10年後の1955年に開館した。大規模改修は3回目。現在、本館は538点、東館は現物と複製計約60点、その他写真など約100点を展示している。世界的な建築家の故丹下健三氏が設計し、2006年には戦後の建物として初の重要文化財に指定された。18年度の入館者数は約152万人。外国人入館者数は6年連続で過去最多を更新し、約43万人に上る。

戦争当時のことを風化させてはならない！  
一人ひとりが改めて平和について考えよう！